



## 国際交流員ウィルペルトのコラム

### 環境への自覚 Umweltbewusstsein (ウムウェルトベウウストザイン)



先日、ドイツでの脱プラスチックの状況について質問を受けました。日本では先月、プラスチック削減のための法律が施行されたこともあり、この話題に触れる良い機会だと思えます。

皆さんは、プラスチックについてどう思いますか？ スーパーに行くと、プラスチックに囲まれていると感じませんか？ バナナやミカンのように、もともと自然の皮に包まれているのにプラスチックの袋に入っているものを買うことにうんざりしませんか？ 自分でお弁当を作る時間がなくて、使い捨てプラスチック容器に入ったお弁当を買わないといけないとき、罪悪感がありますか？

私は、プラスチックを押しつけられているようにさえ感じます。

ドイツ人は、一般的に環境に配慮していると言われています。ドイツ人にとって「エコロジカル」は、「環境にやさしい、自然由来、清潔、配慮、生分解性、無害」という意味です。

プラスチックは、数百年かけて小さい粒子になり続けても分解はしません。それに、燃やすと有害な温室効果ガスのCO<sub>2</sub>と汚染物質を排出します。そのため、多くのドイツ人は好みません。また、プラスチックに触れる食べ物や飲み物、皮膚や呼吸を通して摂取するプラスチックの有害な添加物・可塑剤が及ぼす、健康や生殖機能への影響について多くの人が心配しています。

ドイツでの14歳以上の購買行動に関する調査では、27.6%の人が買い物の際にプラスチック包装を避けると回答しました。私の個人的な印象ですが、プラスチックを避けることは、ドイツでは日本よりずっと簡単です。

例えば、多くのスーパーでは牛乳やヨーグルト、生クリームなどの乳製品をガラス容器で購入することができます。パンや甘いお菓子（タルトやドーナツなど）を紙袋に入れてくれるパン屋さんも多いです。



ジャムや、あらゆる種類の漬物のほとんどが瓶詰めで販売されています。「Getränkemarkt (ゲトゥレンケマーケット)」という飲料だけを販売するスーパーでは、多くの種類の飲料（ミネラルウォーター、フルーツジュース、炭酸飲料、ビールなど）が瓶で売られています。専用の飲料用ボックスに6本から20本まで入るので、ボックスごと購入します。



購入時に、瓶とボックスには「Pfand (プファンド)」という補償金を払います。そして、飲み終わった瓶とボックスをスーパーに返却すると、プファンドは戻ってきます。

スーパーで買ったヨーグルトなどの瓶も、同様に返却します。返却された容器は業者に戻され、そこで洗浄された後、再び充填され、スーパーに供給されます。最多50回まで再利用が可能だけでなく、有害なCO<sub>2</sub>も使い捨てペットボトルの半分程度しか発生しません。環境にやさしい包装や容器を使うことは、ドイツですずっと続いてきたことです。

それにもかかわらず、ドイツにはプラスチックの問題があります。2019年に行われた調査によると、1年間に発生する使い捨てプラスチックごみの国別比較では、ドイツは国民1人当たり22kgで世界第35位でした。日本は国民1人当たり37kgで世界第18位でした。

(Plastic Waste Maker's Index - Minderero Foundation & KPMG International)

プラスチックを減らしていくために、ドイツやヨーロッパでどのような対策が行われているかについては、6月号で書いてみたいです。

ぜひ関心をもって読んでいただきたいです。

